

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4673500064
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	高齢者グループホーム 金峰やすらぎ館
訪問調査日	平成21年6月8日
評価確定日	平成21年8月5日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4673500064
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	高齢者グループホーム 金峰やすらぎ館
所在地	鹿児島県南さつま市金峰町宮崎3992-1 (電話) 0993-58-4075

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年6月8日	評価確定日	平成21年8月5日

【情報提供票より】(21年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,800 円	その他の経費(月額)	光熱費1日450円・寝具リース1日70円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月2日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	13 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 82.83 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有馬病院・阿多病院・崎元歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

金峰山を眺め吹上浜海浜公園に向かう田園地帯の自然豊かな広々とした環境の中にやすらぎ館は立地している。デイサービスが隣接しており、デイ利用の地域住民との交流の場にもなっている。開設6年が経っているが利用者が大変元気で表情が明るく、ホーム全体に活気がある。また、利用者の大半は家族が県外に居住しており、ホームとしては健康面に特に力を入れ、かかりつけ医の往診や訪問看護ステーションの定期訪問などにより本人はもちろん、遠方の家族の安心にも繋げている。職員も自己研鑽意欲が高く、何事にも一生懸命取り組んでいる姿勢が見られ、パワーを感じられる。管理者も交代し、2年目の本年度は新しい取り組みが期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型理念の作成を検討中である。地域との付き合いは前年に引き続き取り組みを行っていきたい項目であり、本年度は積極的に行き出す姿勢で地域との交流に努めていく方針である。運営推進会議をサービス向上に活かす取り組みは、運営推進委員の方々から出された意見などを職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義の理解を周知徹底することに努め、今回の自己評価のケアの部分は職員会議で話し合った結果をまとめたものである。外部評価の結果は運営推進会議でも報告し、家族にも配布している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>家族代表、行政、自治会長、民生委員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。利用者の状況報告や職員会議において検討された内容の報告などを行っている。運営推進委員の方から外出についての助言を頂き、職員会議で話し合った結果3~4名ごとで「買い物ドライブ」という名目の外出しやすい取り組みを試みており、利用者のサービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>第三者委員に法人の評議員と監事、民生委員の計5名をたてており、玄関にも意見箱を設置するなど、家族が意見、要望を表わしやすくしている。また、納涼会など催し物の後、家族のみの懇親会を持ってもらい、話し合いの場を提供し、出された意見は運営推進会議などで話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は自治会総会などに出席し、ホームの利用状況など報告し、回覧板にパンフレットをつけて配布するなど、地域の在宅で生活している高齢者に情報提供し、ホームの啓発に努めている。併設のデイサービス利用者との交流もある。ホームでの催し物の案内を地域住民にも配布するが、なかなか参加が得られないのが現状である。今後は積極的に地域に出向き、交流を深めるとともに、安全対策のためにも地域と密な関わりができるような取り組みに努める意向である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初、職員全員で作り上げた理念である。「やすらぎのある時間」「ひとりひとりを大切に」「快適に過ごしやすい楽しい家族を目指します」と利用者がその人らしく暮らせるようにとの思いの理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット入り口の目に付く場所に掲示し、職員採用時にホームの取り組みを理念に沿って説明している。また、日々のケアにおいて理念に立ち返るべき場面が出てきたら、職員間で気づきあい理念の実践に向けて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は自治会総会などに出席し、ホームの利用状況など報告し、回覧板にパンフレットをつけて配布するなど、地域の在宅で生活している高齢者に情報提供し、ホームの啓発に努めている。併設のデイサービス利用者との交流もある。ホームでの催し物の案内を地域住民にも配布するが、なかなか参加が得られない。今後は積極的に地域に向き、安全対策のためにも交流を深めるような取り組みに努める。		今後は積極的に地域に出て行き、災害対策、安全対策においても地域住民の協力が得られやすくなるように地域との交流を深める取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義の理解を周知徹底することに努め、今回の自己評価のケアの部分は職員会議で話し合った結果である。外部評価の結果は運営推進会議でも報告し、家族にも配布している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、行政、自治会長、民生委員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。利用者の状況報告や職員会議において検討された内容の報告などを行っている。運営推進委員の方から外出についての助言を頂き、職員会議で話し合った結果3～4名程度で「買い物ドライブ」という名目で外出しやすい取り組みを試みており、利用者のサービス向上に活かしている。今後は安全対策として警察、消防の参加と幅広い参加者も検討中である。職員育成にも繋がるので職員の参加も検討する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課と定期的な情報交換を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に行事の際の写真と状況報告、金銭出納帳にて金銭管理の報告をしている。遠方の家族には定期的に電話で金銭管理もあわせて報告している。また、請求書とともに行事の際の写真も送っている。状態変化などの際は随時電話にて報告している。ホーム便りを年2回発行している。職員異動は面会時に紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員に法人の評議員と監事、民生委員の計5名をたてており、玄関にも意見箱を設置するなど、家族が意見、要望を表わしやすくしている。また、納涼会など催し物の後、家族のみの懇親会を持ってもらい、話し合いの場を提供し、出された意見は運営推進会議などで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はなじみの関係の大切さを理解しており、法人としても介護職員の異動は行っていない。離職の際は新規採用者との引継ぎに充分時間がとれるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の研修は各ユニットの介護主任がマンツーマンで指導している。法人内研修は夜あるので、夜勤者以外は基本的に全員参加である。また、日々のケアの中で疑問点などが発生した場合、介護主任、ケアマネ、管理者が都度指導にあたっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換、研修など行っている。今後は職員同士の交流も含め、職員の参加も検討する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>これから入居するホームの雰囲気を覚えてもらい、本人が納得して入居することが大事なので、基本的には必ずホームに足を運んでもらい、スタッフや他の利用者の様子を含めホーム内を見てもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、らっきょう漬、梅干、団子作り、梅ジャム作りなど利用者に教えてもらい支えあう関係を築いている。また、地域のお祭りの話や昔話に傾聴し、尊敬の念を伝えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に得た情報と日々の関わりの中で言動や表情から得られる情報を職員は共有し、思いや意向の把握に努めている。大半の利用者は思いや意向を訴えてくるので把握しやすい。また、できること、したいことに応じ、無理のないように有する力を発揮できるように必要な部分を支えるように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の思いや要望、また職員、必要であれば主治医の意見を取り入れ、集約しそれらを反映して本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員会議で意見交換し、見直しの必要がある場合や更新認定時や心身状況の悪化が見られた場合、担当者会議を行って、主治医、訪問看護師の意見をもらい、現状に即した計画を作成している。日々の記録に残したものは定期的に集約し、計画の見直しと支援に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて病院受診や訪問看護ステーションとの医療連携など事業所の多機能性を活かして柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。毎週、協力医療機関の往診や週4日訪問看護ステーションの定期訪問もあり、健康管理や介護の指示をもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に本人家族に重度化や看取りに関するホームの指針を説明し、同意書ももらい納得して入居に至っている。職員も方針は共有し、ホームとしてできる限りの支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に接遇に関する研修を行い、日々のケアの中でも利用者の誇りやプライバシーを損ねるような接し方はないように心がけ、職員会議時に利用者への対応について再確認している。職員採用時に個人情報の取り扱いについての誓約書も取ってある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のホームの流れはあるが一人ひとりのペースに沿った支援をしている。発語や感情にこめられた思いを大切に、その人らしい暮らしの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせ片づけなど、できる活動を支援している。また、定期的な嗜好調査や日々のメニューの中でことばに発する好き嫌いを把握し、栄養管理を含め、楽しい食事ができるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決められているが本人の状況、希望に応じて支援している。また、個々の習慣を把握し、支援している。行事などで外出があった場合は曜日に関係なく入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴、習慣を反映させながら、畑仕事、花作り、洗濯物たたみなど、力を活かした支援をしている。また、読書の好きな利用者やカセットで浪曲、演歌を聴くのが好きな利用者、毎日家族からの手紙を楽しみにしている利用者には代筆など楽しみごとの支援をしている。初詣、1日遠足など気晴らしの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は戸外に散歩に行ったり、買い物やドライブと外出の機会を設けている。また、時にはテラスでお茶を楽しんだりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解し、利用者の行動を抑制しないケアに取り組んでいる。外出の察知はセンサーが感知するので、職員はさりげなくついていき見守りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災、水害時を想定した訓練(夜想定)を実施している。通報訓練も実施しており、5分以内に消防車が来るようになっている。今後は地域住民の参加を引き続き呼びかけて行くとともに警察、消防の連携を強化し、避難体制の構築に取り組んでいく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェック表にて個々の状態を把握している。疾患のある利用者は医師の指示をもらって対応している。また、身体状況に応じ、食事形態を考慮し、毎月体重測定も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分のホールは日当たりが良く、明るい。季節の花々の装飾がされ、手作りのカレンダーが飾られている。また、天井に大きなプロペラが回っており、常に空気が循環し、換気されている。浴室、トイレ、洗面も利用者の身体機能を活かし、自立した生活が送れるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	遺影、仏具、鏡、化粧品、パイプハンガー、家族の写真などそれぞれなじみの物が持ち込まれて、安心して生活を楽しんでいる。各居室に温湿度計があり、冬場の乾燥対策は加湿器をおくなど配慮している。		